

帰

国と定住、それぞれの選択

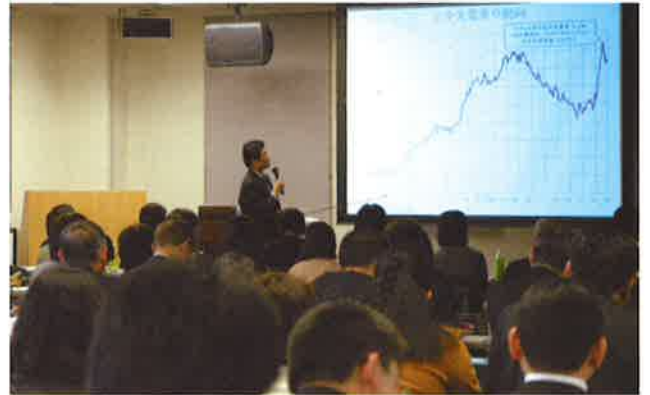
名古屋、横浜で「平成21年度在日日系人のための相談員セミナー」開催 子弟の教育問題がカギ、日本語習得は必須

当協会は、地方自治体や国際交流協会などが設けている日系人に対する相談窓口の担当者や民間支援団体等の関係者が有意義な情報を共有し、共通する問題の解決に役立ててもらうため、1月22日に名古屋市のJICA中部で、2月10日にJICA横浜で「日系人のための生活相談員セミナー」を開催した。名古屋では71人、横浜では98人と両会場とも昨年を上回る参加者が集まり、外国人失業者の増加に伴い、対応する相談窓口や携わる人員が増えたことや、外国人との共生に関して地域で問題意識が高まっていることをうかがわせる結果となった。

サンパウロの国外就労者情報保護センター(CIATE)二宮正人理事長は、両会場における「日系就労者の目指すべき道とは—リーマンショックから1年を経た日本とブラジル、現況からの考察」と題した基調講演の中で、ブラジルの経済状況は好調であるが、給与はデカセギが始まった頃と同じ水準にあることを指摘し、その術がある人は日本に留まった方が有利であると述べた。

また、ブラジルに帰国した子女の学力不足を憂慮する一方、日本でおおよそ100人のブラジル人子弟が大学に進学しているデータもあると述べ、日本企業への就職者が出るようになれば在日ブラジル人のセカンドクラスからの脱却に繋がるかと期待感を表した。

「子弟教育、それぞれの選択」と題した講義では、名古屋で愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンター小島祥美講師が、ブラ



講義する山田厚労省外国人雇用対策課長 (JICA横浜で)

ジルで実施されている、帰国子弟のサンパウロ州立学校への編入援助プログラム「かえるプロジェクト」について、昨年10月に視察した折の実例を交えて紹介し、帰国後ブラジルで適応に苦勞する子ども達の学力に見合った、日本語—ポルトガル語、相互の辞書制作が必要であると述べた。

横浜会場では、アイデア・ネットワーク代表のアルベルト松本講師が、主に在日ペルー人の動向について解説し、親の母語の継承は親の意思やコミュニティとしての課題であるとしながら、ペルー人は、子弟教育は日本の公教育を選択し、その中での支援を求めていると解説した。

厚生労働省職業安定局外国人雇用対策課山田雅彦課長は、両会場で「厚生労働省の対日系人施策と今後の展望」について講義を行った。

山田課長は「日本社会は外国人の受入に関して、多文化共生でなく社会統合という方向に舵を切る時にきており、厚労省の施策はそれにとって実施している」と述べ、再就職には日本語能力は最低条件であり、そのことを日系人も認識していることが就労準備研修の需要拡大に繋がったと述べた。また、現在の厳しい雇用情勢では、それに加え、一定の技術を身につける必要があるとし、外国人に配慮した形での公共職業訓練や緊急人材育成・就職支援基金による職業訓練を行っていること等を紹介した。

講義終了後、本年も日本行政書士会連合会の協力による無料相談会を行った。



会場からの質問に答える講師陣 (JICA横浜で)

モ

モチベーションがあがった! 「移住学習」

JICA「日本語学校生徒研修」で
北・南米から日系子弟39人が来日

JICAが実施する「日本語学校生徒研修」で、カナダ、コロンビア、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、パラグアイ、ブラジル、アルゼンチンの8カ国から、日本語学校で日本語を勉強している13才から15才までの生徒39人が1月6日、7日に来日。日本の文化や習慣を学ぶため、JICA横浜での講義のほか、市内の中学校での体験入学や和歌山市内の一般家庭でのホームステイなど、約1カ月の研修生活を送った。当協会は、この研修の企画から実施までをJICAの委託を受け行った。

生徒には国の違いや生活環境によって日本語力や日系人としての意識に差があるが、海外移住資料館を併設するJICA横浜での「移住学習」の授業が、生徒達の心に与えたものは大きかったようだ。カナダのポメロイ真秀くん(15)は、「一世の僕には、100年前の移



住の歴史は関係ないと思いましたが、授業を受けて日系人としての責任感を生まれて初めて感じました」と作文につづった。

真秀君の母親、百合さんは、「今までただ行っているだけだった日本語学校も、モチベーションがぐっとあがったようです。日本語能力試験も2級に挑戦してみたいと言い始めました」「そちらで受けた移民教育に興味を持ち、もっとビクトリアの日系人社会の事も知りたいというようになりました」と帰国後の様子を知らせてくれた。

生

生き残るための「技術を身につけたい」

「介護福祉」訓練のための
日本語フォローアップ研修



厚生労働省が実施する日系人就業準備研修は、21年度の実施対象者数が当初予定していた5000人から6000人へと拡大しており、再就職のために日本語能力が不可欠であることが、日系人の間に浸透してきた感がある。

緊急人材育成支援事業として、一定の日本語能力を持つ者に対し、さらに専門技術を身につけさせるための基金訓練があるが、神奈川県内で「介護福祉」の基金訓練が実施されるにあたり、訓練受講希望者に専門用語や内容を理解するための日本語力を身につけさせる「フォローアップ研修」が2月9日から3月6日まで、大和市の生涯学習センターで行われた。当協会は、(財)日本国際協力センター(JICE)からの委託を受け、研修の企画、募集選考、実施、運営業務を担当した。

クラスは午前と午後に別れ、それぞれ18名、17名の

35名が、定員30人の「介護福祉」訓練に進むため、慣れない介護分野の日本語習得に励んだ。

ボリビアからの井上キロスさんは、在日歴13年。厚木市の自動車関連会社や大和市の化学製品会社の工場で派遣社員として働き、3人目の子供の出産を機に退職した。出産後、再就職活動を始めたが6カ月経ってまだ職はない。「子供がいるので、いままでのように1日働けない。介護なら4時間、5時間でも働ける」と話す。

ブラジルの本多マルセロさんは在日18年。最初は四国にいる親戚を頼って来日した。日本語は「そこそこ」できた。大阪を経て東京に出てきたのが8年前。最後は自動車関連工場に働いていたが、他のブラジル人やペルー人らとともに職を失った。やはり派遣による就労だった。「来年50才になるので、しっかりとした技術を身につけなければと思った」。マルセロさんは奥さんと二人暮らし。夜勤で弁当工場のアルバイトをしながら勉強している。

どの受講生のテキストにもひらがなでルビがふられ、びっしりポルトガル語やスペイン語のメモが書き込まれている。日本で「生き残る」ための真剣さがひしひしと伝わってきた。



井上さん(左)と本多さん

在日
ニッケイ人は
今...

寄稿

在日ブラジル人を代弁する組織に!

NNBJ 全国在日ブラジル人ネットワーク
(Network Nacional dos Brasileiros no Japão)

2008年末から、リーマンショックをきっかけに工場などで働いていた日系人のおよそ70%が職を失いました。派遣という弱い立場で働いていた日系人が、企業の都合で真っ先に首を切られてしまったのです。

永住権を取り、日本で暮らしていこうと決める人も増えてきたところに、一気に仕事も住むところも失ってしまい、子供も学校に通わせることができなくなり、ローンだけが残った者も少なくありません。

我々は、すでに日本に20年間暮らし、労働を提供し社会貢献してきた在日ブラジル人の存在をもっと広く日本人にアピールし、同じ生活者としての権利を訴えていかなければだめだと思い、初めて全国のブラジル人に呼びかけて昨年1月18日に東京でデモを行いました。350人が集まりその後2月1日に名古屋で行ったデモにはおよそ1500人が集まりました。在日ブラジル人が団結して、その声を代表、代弁する組織の必要性が高まり、駐日ブラジル大使館もバックアップしてくれました。

そして2月14日に駐日ブラジル大使館で発足したネットワーク準備委員会を経て、日本に住むブラジル人による初めての全国的な組織としてNNBJが発立され、目的を次のように定めました。

- 社会的権利、政治的達成、自立などの目的をもって活動する個人・団体と連帯する。
- 労働者とその家族が市民としての義務と権利を自覚するよう、意識化に向けての運動を組織し展開する。
- 人種、皮膚の色、性、言語、宗教、政治的信条、使用言語又はこれに類するいかなる事由による差別に対しては、妥協のない確固たる態度で臨む。
- NNBJは、日本社会と連携・協力することにより、多文化共生の実現を目的としたプロジェクトや事業を行う。またその目的達成のために必要なデータ収集を行うとともに、日本人協力者の支援を求める。
- 在日ブラジル人を代表し、日本国内の政府機関に対する代弁者の役割を担う。
- 在日ブラジル人の、市民として労働者としての権利を擁護する。
- 在日ブラジル人のイメージ向上に努める。
- 在日ブラジル人の支援を行う個人や団体(公的・民間)が多文化共生を推進できるように必要な支援や協力を惜しまない。
- 在日ブラジル人の文化的伝統や表現活動の維持および普及を行う。
- 日本とブラジルの文化交流を促進し、両国において広報活動を行う。
- 在日外国人コミュニティおよび日本社会との交流活動を促進する。
- あらゆる少数者に対する偏見や差別のない社

会創造に向けて貢献する。

NNBJの運営は、合議制で行われており、毎月1回会議を執り行い運営方針を討議しています。会が発足し早や1年になりますが、これまで日本・ブラジル双方の有識者を招き、在日ブラジル人の抱える問題や日本人との交流をテーマにした公開シンポジウムや映画祭などのイベントも実施してきました。

在日ブラジル人が抱える様々な問題は、日本政府の「移民政策」の欠如のせいだと、解決策を求めることは大切なことでしょう。ですが、これまで日本社会に本気で統合しようと努力をしなかった多くのブラジル人自身にも責任の一端があるように思えます。加えて、労働・社会保険・教育などの課題に、ブラジル人コミュニティの代弁者として自分たちを代表する団体が存在しなかった事も、問題解決を遅らせた一因ではないかと思っています。

今のところ、東京、神奈川と浜松、名古屋など中部地方の個人・団体有志の集まりがNNJBのメンバーで、まだ本当の全国組織とは言えません。また、スポンサーを持った団体ではなくその活動も十分とは言えませんが、その情熱は暑い太陽のように燃え、上記にある目標を達成するべく日々精進しています。

我々は、日本社会に生きる日系人という不思議な状況を経験しています。海外で暮らす日系人の皆さんとなら変わらない問題を、本国である日本で我々は体験している。日本の日系人の暮らしが向上するだけではなく、海外に暮らす日系同胞の暮らしが向上する事を願っています。



2010年1月23日、名古屋で行った第10回NNBJ会議に集まったメンバー
(COLÉGIO BRASIL JAPÃOで)



T230-0051 Japan
Kanagawa-ken Yokohama-shi Tsurumi-ku Tsurumi-chuo 1-4-3 Kyodo Bldg 5F
Tel: 050-6860-4031/050-6860-4032 Fax: 045-508-1955
e-mail: nnbj@abcjapan.org

合同研修会とデカセギ・ワークショップ

当地サンパウロは現在、夏真っ盛りで雨期にも当たる為、先日2月上旬まで40日以上連続して降水量が更新されたと話題になりました。またブラジルといえばカーニバルの印象があります様に、「カーニバル2010」が2月中旬に全国各地で開催されました。サンパウロでは2月12、13日と、カーニバルの一番の目玉であります「グルッポ・エスペシャル」が開催され、14グループが参加し、栄光を目指して大いに盛り上がりました。(因みにリオでは13、14日で12グループが参加しました。)

今回は2月と3月にCIATEで行われる合同研修会と、初めての試みであるCIATEワークショップについてご案内いたします。

まず、最初の「合同研修会」とは、主に日本に就労の為に行く人達を対象としていますが、それ以外にも新聞等で一般の方々にも参加を呼び掛け、日本での就労や日本の状況に興味がある方々に広く参加して頂いております。2、3カ月に1度、土曜日午後からCIATE会議室で開催され、日本から帰国した就労経験者や、それぞれ各分野の専門家に講演を依頼しています。2月27日開催の「合同研修会」は、これまでになく盛況で60名程の受講者が参加しました。

今回の講演は ミヤハラ・エニオ氏による「ブラジル労働市場への復帰-デカセギ成功者の助言」で、彼は日本では大手食品製造会社で働き、現在はブラジルに戻り、同社の現地法人に就職しました。次にCIATEの良き理解者でもあり、税務関係の専門家である、タカハラ・テルアキ氏に



合同研修会で講義する二宮理事長

よる「デカセギの為のブラジルの所得税申告」。昨年の4月にも講演頂き、終了後も個別に1時間ほど質問に答えて下さった程、関心を持たれているテーマであります。最後に私が「現在の日本の経済と雇用情勢」をテーマにして話しました。

次にCIATEワークショップ (Oficina de Integração de Decasseguis no CIATE) についてご案内いたします。

3月13日(土曜日)、10時~19時文協(ブラジル文化福祉協会)ビル内で開催予定です。

この催しは、毎週火、木曜日に行っている、事前研修セミナー(日本事情事前講習会、日本語講習)の日本語講師や自己啓発、職業の適応力向上などの専門講師及び、起業したデカセギ経験者を集って頂き、各ブース(今回文協ビルのCIATEの隣にある3部屋)に分かれて、参加者との直接対話を通して、理解を深めていくスタイルを取り、より親しみやすく、間口を広げて参加をしていただく企画にしました。

簡単に申し上げますと、今回のキーワードとして「日本語」「職業の適応」「企業、企画」を選択しました。

この3つのキーワードにより、今回各ブースに分かれ、各講師其々のアイデアの中

で、行います。通常の講座の中では、ある一面情報の発信のみに成りがちですが、参加者の疑問や問題点に、その場で答えるような形でハードルを低くし、同時に参加者が興味のある各ブース(部屋)に直接参加でき、今まであまり講演などに興味を示さず、参加を躊躇していた人たちにも、参加していただけるような企画をCIATE職員、各講師が考え、楽しみながら、興味を持ってもらえるようなCIATEワークショップにしたいと、全員張り切っております。ぜひデカセギ帰国者や、今後の日本経済の回復を見守りつつ、訪日就労希望をお持ちの方々に、大勢参加していただければ幸いです。

今回の「NIKKEI NETWORK」ではよいご報告ができますように、一同頑張る所存です。



合同研修会に集まった人たち

Oficina de Integração de Decasseguis no CIATE

Para as pessoas que retornaram do Japão e estão procurando organizar ideias e decidir o que fazer daqui para frente, convidamos para passar um dia conosco. Venha informar e aprender através de dinâmicas e atividades lúdicas que cada profissional elaborou. "Vamos discutir as próximas duas semanas para começar o ano de 2010 com novas energias!"

Entrada Franca
Inscrição Tel. (11) 3207-9014



Empreendedorismo para Decasseguis
(comportamento empreendedor)
Dr. Roger Kijima e Dra. M. de Betina Sato

Descobrir Talentos e Fazendo Escolhas
Dr. Roberto Siqueira e Dra. Helene Odaka Mizuno

Conhecendo "Nihongo" de Uma Forma Divertida
Prof. Anderson Yamada e Rita, Paula Akemi

 Dia 13 Março de 2010 - sábado - das 10:00 - 19:00 horas
Rua Sao Joaquim, 381 - 1º andar

CIATEワークショップのチラシ

事故といじめなど…

相談センター所長 西山 巖

(財)海外日系人協会 **日系人相談センター**

■相談受付 月曜日～金曜日(土・日曜、祝祭日を除く)

9:30～12:30 13:30～17:30

■対応言語 ポルトガル語、スペイン語、日本語

■電話番号 045-663-3258

2009年4月から2010年1月まで(10カ月間)における当センターが受け付けた相談件数等は次の通り。

相談者の人数は3,326人、相談件数は5,548件(前年度比2.5%増)であった。相談者3,326人の男女別内訳は、男性1,631人、女性1,695人で国別では、ブラジル38%、ペルー35%、その他15カ国となっている。内容別にみると、生活相談が一番多く、その他日本語学習、労働問題と続いている。

交通事故

相談 2カ月前、自転車に乗り交差点を渡っている途中で、横から来た乗用車にはねられる事故に遭いました。警察が来て救急車が呼ばれ直ぐ近くの病院に運び込まれました。手当が一段落した後、警察とおそらく加害者だと思われる人が来て、関係書類と思われる書類を提示し、説明を始めました。又、車の保険会社も来たようですが近くに知人、親戚、家族もいないまま、日本語がよくわからない自分は色々な書類にサインさせられました。

その後2カ月間入院し、現在は退院しリハビリ中でこのリハビリは約2カ月続くと説明を受けています。担当者に病院関係費用、休業中の給与等についてたずねたところ、最初は車の保険で支払われると言っていたのですが、最近になって、雇用先の会社が払うとか言い出しはつきりしません。そこで聞きたいのですが、私の場合どのような保険が適用されるのでしょうか。

対応 交通事故の場合、加害者の自動車保険から支払われるのが一般的です。勿論被害者が仕事を休んでいる間の給与もこれから支払われます。事故処理の責任者がはつきりしないのは困りますね。通訳を介して保険会社の担当者に内容をよく確認してください。もし、はつきりした返事がもらえないようであれば、もう一度こちらに電話してください。こちらから問い合わせさせてみます。

職場のいじめ

相談 人材派遣会社を介して、今の会社で4年間働いています。最近是不況のあおりで週3日の勤務となってしまいました。仕事が減ったストレスもあり、工場内ではいじめが多くなってきました。私も同じようにペルー人、ブラジル人、人材派遣会社等からいじめに遭っています。同僚からは、口で攻撃されていますが辛い暴力は受

けていないので警察沙汰にはなっていません。自分は無視していましたが、最近これがエスカレートし耐えられなくなってきています。弁護士に依頼してこのいじめを止めさせたいと思っていますが、どうでしょうか。

対応 このようないじめで弁護士を雇うというのは聞いたことがあります。まず、ストレスが何故いじめに発展するのか同僚と直接話し合ってみてはどうでしょうか。派遣先の人を巻き込めば、問題が広がり、現在の職を失う危険性があります。派遣会社には協力してもらって同僚同士腹を割って話すのが一番良い方法だと思います。しかし、いじめがひどく労働環境に影響するようであれば、労働基準監督署に相談することをお勧めします。

仲間内で見合わないで、手を携えてお互いに頑張られるような職場になってほしいと思います。

派遣会社のいやがらせ?

相談 知人から条件の良い仕事の誘いが急に入り、働いていた所を無断で出てきてしまいました。しかし、あてにしていた新しい仕事はキャンセルになり失業してしまいました。

他の派遣会社に仕事の斡旋を依頼し、何社もの会社の面接を受けましたが受入れには至っていません。妻の就職についても、契約日当日にキャンセルになったこともありました。これは単に不況のせいとは思われません。前の派遣会社が自分に恨みをもって就職の邪魔をしているに違いありません。もしそうだとすると、派遣会社を訴えたいと思っていますが、その場合自分はどうに対処すればよいのでしょうか。

対応 ご通知の通り、現在は未曾有の不況で、何が起ころうとも不思議ではありません。度々の就職面接がうまくいかないのは邪魔が入ったためとは言いきれない状態です。もし前の派遣会社を訴えるつもりであるなら、その証拠がなくては話になりません。人間不信ではまとまる話もまとまりません。もう少し冷静に物事に対処する必要があります。

あえて、あなたが今何をすべきかと言うと、就職のために日本語能力を高めるということだと思います。派遣会社に頼らず働ける環境を確保することでしょう。結果的にそれがあなたの将来の向上に結びつきます。

賛助会員のご案内

当協会では、当協会の事業目的および活動趣旨についてご賛同いただける賛助会員を募集いたしております。会費・特典等は下記をご参照下さい。

なお、「ニッケイネットワーク/海外日系人協会だより」につきましては、次号(2010年6月発行予定)より、賛助会員のみを送付となります。従来、海外移住家族会会員の皆様にもお送りいたしておりましたが、来年度よりは賛助会員のみへの発送となります。この機会に、ぜひとも当協会賛助会員へ加入をご検討下さいませようお願い申し上げます。

海外日系人協会賛助会員

◆年会費

・国内	企業団体	：1口以上	1口	30,000円/年
	公益団体	：1口以上	1口	10,000円/年
	個人	：1口以上	1口	10,000円/年
・海外	団体	：1口以上	1口	100ドル/年
	個人	：1口以上	1口	100ドル/年

◆特典

- ① 海外日系人大会式典およびレセプションのご招待(国内)
- ② 季刊誌「海外日系人」の送付(年2回発行)
- ③ 「NIKKEI NETWORK/海外日系人協会だより」の送付(年4回)
- ④ 当協会企画の南米視察・訪問団等のご案内
- ⑤ 当協会が発行する刊行物の割引

◆送金先

- ・国内 ①郵便振替 口座番号：00100-5-703428
加入者名：財団法人 海外日系人協会
- ②銀行振込(銀行名) (支店名) (普通預金口座番号)
三菱東京UFJ銀行 横浜 4472220
三井住友銀行 みなとみらい 0110749
みずほ銀行 横浜 2530298
(口座名義) ザイ) カイガイニッケイジンキョウカイ

- ・海外 国際郵便為替 又は 銀行小切手
(宛先名) THE ASSOCIATION OF NIKKEI & JAPANESE ABROAD

かなりやの唄

ペルー日本人移民激動の一世紀の物語
坪井壽美子著

「私が十歳になる前、日米戦争がはじまった。そして私たち一家は「好ましくない敵性外国人」としてペルーを追放され、両親がペルーで築いた資産をすべて失い、アメリカ・テキサスの抑留所に監禁され、戦争のさなか、日米捕虜交換船で日本へ送還された」

著者はペルー生まれの二世。両親の移民時代に思いをはせ、ペルー日本人移民一世紀の物語を綴った。



連合出版

四六判上製340ページ

本体価格2500円

発売 2010年2月20日

南へ 高知県人中南米移住100年

第1回ブラジル移民船「笠戸丸」を率いた水野龍は高知県出身であった。2008年のブラジル日本人移住100周年に、高知新聞社は9カ月にわたり記者を派遣して各地の県人移住者の姿を追い、その記事は2008年1月から2009年3月まで同紙に連載された。

取材は、アマゾン地域やパラグアイ、アルゼンチンにまでおよび、「101年目の子孫達」として日本に在留する高知県出身日系ブラジル人の姿を通じて、在日日系人の現況をも伝えている。



高知新聞社

四六判269ページ

本体価格1524円

発行 2009年11月24日

日系社会 Topics

浜松に外国人学習拠点

交流、共生のモデルに アレグリア校も授業開始

地域で暮らす外国人の学習拠点となる「浜松外国人学習支援センター」が1月18日、静岡県同市西区雄踏町にオープンした。自治体が開設する外国人学習支援センターは全国的にも珍しい。日本語学習や地域交流の場として、ブラジル人を初め約2万9千人の外国人が暮らす外国人集住都市のモデルを目指す。

旧雄踏町庁舎を改装した施設は2階建てで、施設面積は述べ約2400平方メートル。1回に講座室や交流スペースを配置し、日本語教室や日本語を教えるボランティアの養成、異文化体験講座などが行われる。2階部分には南米系外国人学校「ムンド・デ・アレグリア」が入居する。

(静岡新聞より)

外国人受入れと社会統合のための国際ワークショップ開催 外務省

去る2月20日、外務省は神奈川県、国際移住機関(IOM)と共催で「外国人受入れと社会統合のための国際ワークショップ」を、横浜市栄区にある神奈川県「自治総合センター」研修ホールで開催した。

アンジェロ・イシ武蔵大学社会学部准教授をコーディネーターとした「外国人を受け入れる地域社会の意識啓発」に関するワーキンググループと、山脇啓造明治大学国際日本学部教授をコーディネーターとした「入国前の外国人に対する情報提供」に関するワーキンググループが、国

内の有識者や、外国人支援に携わる実務者などのメンバーと事前に議論した結果を発表した。後者のワーキンググループには、当協会日系人相談センター西山巖所長も加わった。

《賛助会員便り》

オーストリア チッペルレゆりさん



日本での出会いの後、「母に会って欲しい」という電話で夫の国オーストリア(EU)に来ましたが、間に合わず、重苦しい教会の埋葬に直面して、最初は逃げ出したい気持ちでした。山々の美しい自然や、その中で生きる人々の素朴さに魅せられ、結婚して、こちらに住んで既に20年近くになります。

帰化を迫られ、日本国籍が留保できるように海外日系人協会に支援をお願いしましたが、当面は日本人のアイデンティティを守りたいので、帰化しないことにしました。在外邦人、在外日系人、日系逆移民と、日系人のあり方も多様化していますが、他に海外邦人や日系人の総支援団体がなく、息子が重国籍ですので、今後もお世話になることが多いだろうと思います。

こちらは自分でレンガを積んで家を建てる人が多く、夢のひとつだった大工仕事を楽しむことができました。散在する湖やアイスリンクでフィギュアスケートやアイスホッケーにも親しんでいます。保守的な地域ですが、田舎の村でもフィギュアが理解されるようになり、最近では戸外で臆面なく外国語を話す住民も増えました。

(グローバル市民権ネット主催)

www.gcnet.at

NIKKEI NO.4
Network
海外日系人協会により
2010 MAR.

発行／(財)海外日系人協会 〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港2-3-1 赤レンガ国際館2F
TEL: 045-211-1783 FAX: 045-211-1781
E-mail: info@jadesas.or.jp URL: www.jadesas.or.jp 編集発行人／沢地 真



HEALTH AND LIFE INSURANCE
FOR FOREIGNERS LIVING IN JAPAN

～日本で安心して生活するためのセーフティネットとして～

日本初!外国人のための医療保険(100%保障)・生命保険

VIVAMED(医療+生命保障)

¥9500×6回払(一括払1年¥53,500)

VIVALIFE(生命保障)

¥3,800×6回払(一括払1年¥18,900)

(株)ビバビータメディカルライフ <関東財務局長(少額短期保険)第51号>

www.vivavida.net

vivavida

検索

☎0120-656-684 / ☎046-265-6685